杉山春樹 西武が指名 MAX150キロの即戦力投手 プロ野球ドラフト

また1人、伝統ある専大野球部の歴史に新たな名前が加わった。杉山春樹投手（経営4・竜崎第一高）がプロ野球の新人選択選手（ドラフト）会議で西武ライオンズから8巡目に指名を受け、11月24日に同指名から指名あいさつを受けた。

杉山は右の本格派で、187センチの長身から投げ下ろすMAX150キロの直球を武器に即戦力として期待されている。「西武はもともと好きな球団だったのでうれしい。早く試合に出たい」と意欲を燃やす。

振り返ればケガとの闘いで不完全燃焼に終わった大学野球。自主トレーニングに励み、耐えた末での今回の指名だった。周りの評価に対しては「興味ないです。実力がすべてだと思うので」と、その眼差しはすでにプロ意識を感じさせる。

新しい世界に挑む杉山。大舞台で思う存分その実力を“完全燃焼”させてもらいたい。（日下石聡子・文1）

【ニュース専修12月号11面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

ラグビー・関東大学リーグ（2部） 6勝1敗で2位 中央大学と入れ替え戦

▲激しい雨の中、行われた拓大戦（撮影・久我）

9月28日から行われた関東大学ラグビーリーグ戦（2部）の全日程が終了し、専大は6勝1敗で2位となり、12月13日、1部7位の中央大学との入れ替え戦に臨む。

【立正大戦（33-30）】
前半は相手の速攻を止められず、8点差をつけられたが、後半開始と共に追い上げ、21点を追加。3点差で辛くも逃げ切った。

【拓大戦（8-33）】
首位決定戦となったこの試合。前半はなかなか自陣を抜け出せず、2トライを許す。後半15分に鈴木俊（商1・常総学院高）がトライを挙げるものの、相手の攻撃を防ぎきれず今季唯一の負けを喫した。

仲宗根弘明監督は「最後になって悪いところが出てしまった。修正して入れ替え戦までにはチームを仕上げていきたい」と語った。（川本麻美・文2）

【ニュース専修12月号11面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

団体4位、中西（個人）ベスト8 相撲・全国大学選抜高知大会

▲高知大会4位のメンバー。後列右端がベスト8の中西。

全国大学選抜相撲高知大会が11月16日、春野総合運動公園相撲場で行われ、専大は団体で4位となった。

予選を2位で通過し決勝トーナメントへ。1回戦、中大に3-2と苦戦しながら駒を進めたが、準決勝で東洋大に0-5と完敗。3位決定戦では近大に2-3と一歩及ばなかったが、来春行われる全日本大学選抜宇和島大会、全国大学選抜宇佐大会、全日本選抜大学社会人対抗九州大会への出場が決まった。

また、個人戦では中西健二（経営3・目黒学院高）がベスト8入りを果たした。（大野愛子・経済2）

【ニュース専修12月号11面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

アーチェリー・関東学生新人 山本泰志が男子経験者の部で優勝

アーチェリーの関東学生新人選手権が11月11日から13日まで、駒沢オリンピック公園総合運動場で行われ、男子経験者の部で山本泰志（経営1・大宮開成高）が優勝した。

女子経験者の部では海老名里美（法1・県立船橋高）が10位となった。

山本は50メートル、30メートルで安定した実力を見せた。（中村邦宏・商1）

【ニュース専修12月号11面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

拓大破り関東2部復帰 サッカー・関東大学

▲喜びのサッカー部員。サッカー部ホームページより（撮影・柴山和代さん）

第36回関東大学サッカー大会が11月2日から16日まで、埼玉スタジアム第2グラウンドほかで行われ、専大はトーナメントを制し、6年ぶりとなる関東2部リーグ復帰を果たした。

東京都大学リーグ3位として出場した専大。順調に勝ち上がり、迎えた拓大との決勝戦。緊迫した接戦となったが、終了直前にFW三輪宏真（法3・真岡高）のゴールで勝利をつかみ取った。

源平貴久コーチは「4年次生がチームを牽引し、一丸となって目標を達成出来た」、青木大輔主将（商4・市立船橋高）も「後輩たちに良いプレゼントが出来た」と笑顔で話してくれた。（久我智也・文1）

【ニュース専修12月号11面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

部活拝見 体育会バドミントン部（男子）

▲一気に3部まで復帰。自信みなぎる5選手。

▲厳しい練習を繰り返す部員

バドミントン部（男子）の練習を見に体育館に足を運んだ。そこで目の当たりにしたのは、バドミントンという競技の想像以上の激しさだった。ネット越しに繰り広げられる目まぐるしいラリーでは、部員たちがシャトルに必死に喰らいついている。その姿から体力、技術にも増して、絶対にあきらめないという強い意思の大切さが伝わってきた。

1962年から体育会として活動し現在、部員数は5人。かつては1部でも活躍したが成績不振、部員の減少によって休部を余儀なくされた。しかし昨秋の関東大学リーグ戦から9年ぶりに公式戦に復帰。6部からの再出発を見事リーグ優勝で飾り、5部への昇格も果たし、上々の滑り出しを見せた。強力な新入生も加わり更に勢いを増した今年、菊地慎一郎主将（経済4・新城高）が「負けたら廃部という覚悟で臨んだ」というリーグ戦を春季、秋季ともに無敗で制し、入れ替え戦でも危なげなく勝利を収め、3部復帰を果たした。

来季に向けて尾崎弘一（法3・伊東高）は「チームを支えてくれた菊地主将の抜ける穴は大きいが、チーム全員の成長でカバーしたい。そして、一人ひとりが勝つことの出来るチームを目指したい」と話す。

まだまだ成長段階の彼らに、OBも大きな期待を寄せる。11月23日に開かれたOB会創立40周年記念大会では、大いに激励を受けた。

破竹の勢いを見せる新生バドミントン部。悲願の1部復帰に向けて突き進む、彼らの成長に期待せずにはいられない。（松本旬平・経済1）

【ニュース専修12月号11面】

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.